

《2020 年 9 月（通算 287 回）月例会報告》

「With コロナ」の時代に向けて③

—地域スポーツクラブの現場より：ドクターの視点から—

【日 時】2020 年 9 月 25 日（金）19:00～21:00（終了後、オンライン懇親会 ～23:30）

【会 場】それぞれの居場所（「Zoom」を用いたオンライン月例会）

【テーマ】「with コロナ」の時代に向けて③—地域スポーツクラブの現場より：ドクターの視点から

【演 者】安藤 裕一（株GMSS ヒューマンラボ代表取締役・医師）

【参加者（会員・メンバー）9 名】 注）★は NPO 会員

★安藤裕一（(株)GMSS ヒューマンラボ）、春日大樹（会社員）、★岸卓巨（NPO サロン事務局長）、小池靖、
★笹原勉（日揮グローバル）、★関秀忠（弁護士）、張寿山（明治大学／スフィード世田谷）、★中塚義実（NPO サ
ロン理事長／筑波大学附属高校）、本郷由希（会社員）

【参加者・申込者（未会員）19 名】

梅田宏幸（会社員）、浦井智治（吉川市立吉川中学校）、木村晃（日野市サッカー連盟）、兒玉友（日本福祉大学）、
佐藤幸子（公益財団法人ジョイセフ）、澤江幸則（筑波大学）、白石稔（八王子スポーツ整形外科）、竹尾浩輔（熊
本市立碩台小学校）、多田省吾（筑波大学附属坂戸高等学校）、田中章（One to one）、谷藤千香（千葉大学）、
坪井正人（裾野市サッカー協会）、野田勇紀（明星大学教育学部 3 年）、畑地桂（ジョイセフ）、福田志のぶ（つく
ばユース MDC）、三笠裕史（神奈川県立平塚江南高校）、三好圭子、吉澤昌好（認定 NPO 法人トラッソス）、
林 久仁則

【報告書作成者】安藤裕一ほか

<目 次>

はじめに

第一部

1. 自己紹介
2. 新型コロナウイルス感染症にまつわる社会と国内スポーツ界の動き
3. 新型コロナウイルス感染症が発生した経過ならびに地域クラブの対応
☆全体で質疑応答
☆グループで討議（6～7 名の 3 グループ）

第二部

4. パラアスリートに聞くコロナの影響
5. 地域スポーツのコロナ対応（アンケート調査報告）
☆全体で討議

むすび

はじめに

中塚：みなさんこんにちは。サロン 2002 の月例会に参加いただきありがとうございます。今回は通算 287 回目となります。新型コロナウイルス感染症により、我々の生活は大きく影響を受けています。これを受け、サロン 2002 では、4 月からの月例会をオンラインで開催し、まずは<「新型コロナ」にどう向き合うか>、そして<「with コロナ」の時代に向けて>と題して、シリーズものの月例会を展開しています。「with コロナ」シリーズ 3 回目となる今回は、筑波大学でハンドボールやサッカーを行い、外科医となつて多くの国で活動した後 2015 年に起業され、サロン 2002 との関わりも長い安藤氏に、コロナ禍で地域のスポーツがどのような対応をしているかを、事例を挙げてもらいながら話してもらいます。では安藤さん、よろしくお願いします。

安藤：ご紹介いただきました安藤です。このような発表の機会をいただきありがとうございます。私が 2019 年よりお手伝いさせていただくことになった千葉県にある NPO 法人スマイルクラブと言う総合型地域スポーツクラブで、新型コロナウイルスに感染した会員が発生したのでその事例についてその経過とクラブの対応の報告させていただきます。後半ではパラバドミントンプレイヤーである大濱真選手のコロナへの対応、そしてコロナに対するスポーツクラブや団体から取り組みについてアンケートをしましたのでその報告を行いたいと思います。

サロン2002 2020年9月(通算287回)月例会 GMSS 「withコロナ」の時代に向けて③ 一地域スポーツクラブの現場より ドクターの視点から (株) GMSSヒューマンラボ 代表取締役・医師 安藤 裕一	本日のメニュー <table border="1"> <thead> <tr> <th>【前半】</th> <th>【後半】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 自己紹介</td> <td>4. パラアスリートのコロナ対応</td> </tr> <tr> <td>2. 新型コロナ感染症にまつわる 社会と国内スポーツ界の動き</td> <td>5. 地域スポーツのアンケート報告 ☆質疑</td> </tr> <tr> <td>3. 新型コロナ感染症発生例 - NPOスマイルクラブの紹介 ☆ブレイクアウトルーム</td> <td>6. 告知 (スポハグカフェ 案内)</td> </tr> </tbody> </table> 質問、コメントはチャットに気軽に書き込んでください	【前半】	【後半】	1. 自己紹介	4. パラアスリートのコロナ対応	2. 新型コロナ感染症にまつわる 社会と国内スポーツ界の動き	5. 地域スポーツのアンケート報告 ☆質疑	3. 新型コロナ感染症発生例 - NPOスマイルクラブの紹介 ☆ブレイクアウトルーム	6. 告知 (スポハグカフェ 案内)
【前半】	【後半】								
1. 自己紹介	4. パラアスリートのコロナ対応								
2. 新型コロナ感染症にまつわる 社会と国内スポーツ界の動き	5. 地域スポーツのアンケート報告 ☆質疑								
3. 新型コロナ感染症発生例 - NPOスマイルクラブの紹介 ☆ブレイクアウトルーム	6. 告知 (スポハグカフェ 案内)								

1. 自己紹介

早速自己紹介をさせていただきます。学生時代はハンドボールを中心にスキー、サッカー、ラグビーなどスポーツに熱中。卒業後外科医となり、世界移植者スポーツ大会(臓器移植を受けた人が参加選手)に 3 回帯同。米国・豪州留学、国境なき医師団(コートジボアールほか)、空飛ぶ医師と記載していますがインターナショナル SOS という名前のアシスタンス会社を歴任後、2015 年に株式会社 GMSS ヒューマンラボという会社を起業しました。大学講師・研究員、産業医、スポーツ団体アドバイザーなど日替わりで役割をこなしながら「人々の心身の健康と、心のかようなゆたかな社会」を目指して活動中。サロン 2002 との関わりは約 25 年になります。

安藤裕一 自己紹介 GMSS 東京生まれ、筑波大学卒業 ハンドボール、サッカー 1987- 外科医 日、米、豪州、コートジボアール 2004- 空飛ぶ医師 インターナショナル SOS 2016- (株) GMSSヒューマンラボ 健やかな生活とゆたかな社会 スポーツドクター NPO法人スマイルクラブ スポハグカフェ、国際武道大学、筑波大学 (株) バルシューレ・アカデミー、産業医	 SALON2002  SPORT JSPO OFFICIAL LICENSE  GMSS  smile club SINCE 2000  Ball Schule Academy  ヘルスリービス開発研究センター Health Services Research & Development Center  5HC スポハグカフェ  国際武道大学 INTERNATIONAL BUDO UNIVERSITY  筑波大学 University of Tsukuba
--	---

2. 新型コロナウイルス感染症にまつわる社会と国内スポーツ界の動き

新型コロナウイルス感染症に関連した社会の動き並びに国内スポーツ界の動きについて思い出してもらうためにこちらのスライドをご覧ください。赤字で示した通り、新型コロナウイルスによって子供も大人も、2 月末より 5 月末までの 3 ヶ月間集まってスポーツする機会を失ってしまったことになります。

【社会の動き】	【国内スポーツ界の動き】
12月 中国武漢で原因不明の重症肺炎 2月 「ダイヤモンド・プリンセス号」 韓国、イタリア等の感染拡大 【政府】全国小中高に臨時休校(2/27)	スポーツイベント自粛要請(2/26)
3月 WHOがパンデミック宣言 【政府】特措法成立 【米国】国家非常事態宣言 【政府】7都府県に緊急事態宣言(4/7)	全国高校大会中止（各種） プロ野球開幕延期 東京五輪の延期が決定(3/24)
4月 北海道と札幌市「緊急共同宣言」 【政府】緊急事態宣言（全国）(4/16)	Jリーグ試合の延期が決定
5月 【政府】緊急事態宣言、全国解除(5/25)	夏の甲子園と地方大会の中止
6月	プロ野球開幕、Jリーグ再開
7月	プロ野球、Jリーグ、観客あり試合

3. 新型コロナウイルス感染症発生例

会員が新型コロナウイルスに感染した例は、千葉県柏市に本拠地を置くスマイルクラブでした。まずこのクラブの紹介をします。1998 年より任意団体として発足 2000 年に NPO 法人となります。現在会員数は約 1000 人いますが、4 割である 400 人が発達障害などの障害をもっている子どもや成人であることが一つの大きな特徴となります。創設者である大浜夫妻が目指すスマイルタウン構想は「障がい者も高齢者も一緒に過ごし、笑顔の生まれる街づくりの実現」というもので、私が目指す地域づくりと共通点が多いこともありお手伝いさせていただいています。



障がい者も高齢者も一緒に過ごし、笑顔の生まれる街づくりの実現

NPO法人スマイルクラブの紹介

smile club
SINCE 2000

1998年 発達障がい児の教室（任意団体）
2000年 NPO認証「運動が苦手な子の教室」と「バレーボール教室」
2001年 総合型地域スポーツクラブ

現在
スポーツ教室（バレーボール、バドミントン、バスケットボール）
運動が苦手な子の教室、スポーツ塾（個別指導）など

会員数 約1000名（うち400名が発達障害などの障がい者）

このクラブは、多くのスポーツクラブが行っているのと同様に新型コロナウイルス対策を実施していました。会員である中学生が、通学先の中学の別の運動部員を通して感染したようで、その中学生が感染していることを気づかずにクラブの球技に参加、参加した 3 日後に保健所より PCR 検査で新型コロナウイルス陽性であったと通知が入り、これを受け同クラブはその球技を始め全ての活動を中止。同クラブに当日参加した濃厚接触者は全員 PCR 検査を実施したところ全員陰性でした。8 月 14 日まで自宅待機（活動は休止）、お盆明けである 8 月 17 日から活動を再開しています。スマイルクラブはホームページなどを使用して、状況を都度公開しています。

新型コロナウイルス感染症発生事例	
7/28? 中学運動部部員に感染者あり（親から感染） 同部員30人中濃厚接触者がPCR検査を実施	クラブの対応
7/31 同運動部部員であった	A君がクラブのスポーツ教室に参加
8/1 A君体調不良を自覚	柏市保健所から連絡あり
8/3 A君PCR陽性	クラブの活動全てストップ
8/4 （入院ベッド待ち）	A君との濃厚接触者 PCR実施
8/5 A君 入院 （兄も感染し入院した）	試合をしたクラブ員とコーチ全員（15名） 8/7には全員陰性を確認
8/10 A君 退院	スタッフ全員2週間自宅待機（8/14まで） 8/17 全教室を再開

2020年8月3日 smileclub	参加者募集
新型コロナウイルス感染に関する緊急連絡	
7月31日(金)の豊四季中学校バスケットボール教室参加者より新型コロナウイルスの陽性者が出ました。	
急速ではありますが、本日8月3日(月)よりしばらくの間バスケットボール教室はお休みとさせていただきます。	
詳しい状況については後日ご連絡申し上げますのでよろしくお願いいたします。	

コロナ感染症発生例の経過とクラブの対応についての報告は以上となります。

☆全体で質疑応答

中塚：ありがとうございます。ここまでのところで質問はありますか？

林：濃厚接触者というのはどのように決められたのでしょうか？

安藤：保健所職員がクラブの関係者と話をし、同日同会場で一緒にゲームをした人並びにスタッフが対象となりました。濃厚接触者については、一般には感染者の半径 1-2m 以内に 15 分以上一緒にいたと言われますが、今回のようなケースでは保健所職員の裁量で決められます。

張：スポーツの練習や試合では、例えばサッカーで 90 分試合をしても、15 分以上近くにいるということにはならないと計算したひとがいる。スポーツで本当に感染しやすいのかご存知でしたら教えていただきたいと思います。

安藤：確かにスマイルクラブでも子供たちはマスクの着用は必須としていないし、他の団体でもマスクを着用しないで一緒にスポーツをするところは少なくない中で、スポーツ中に感染が広がったという話も自分が知る限りはありません。むしろ昼カラ（昼のカラオケ）の方が余程クラスターが発生しているそうです。余程至近距離でコンタクトする格闘技系のスポーツを除けば、一般にスポーツで感染するリスクは、狭くて換気が不十分な更衣室が高く、プレー中は低いと考えて良さそうです。

張：スポーツで感染するリスクは低いという印象なのですが、統計あるいは実績ベースで証明できれば良いと思っています。

中塚：高校の体育実技では徐々にできることを広げながら取り組んでいます。分散登校が始まった最初のうちは、ボールや用具は使いません。やがて簡単な球技を取り入れ、活動後は手洗いとともにボールの消毒をしていました。いまではボールの消毒よりも手洗いをより重視する方向で、「with コロナ」の

体育実技の方針を少しずつ見直しています。より注意すべきなのは、実技をやっているときよりも、活動前後の更衣室だと認識しています。

ここで安藤さんに質問ですが、スマイルクラブでは更衣室はどうしていますか。

安藤：スマイルクラブは公共の施設を利用して、その施設の方針に従っています。私が知っているスマイルクラブが使用する市の施設は、更衣室の使用禁止になっているので、会員は運動できる格好で会場に参加して、更衣せずに帰宅しています。

張：公共のスポーツ施設ではシャワー使用を禁止としているところが多いですが、真夏の暑い時に汗だくになってもシャワーを浴びることができないという行政の一律の対応には不満を感じています。文句でした（笑）。

安藤：この後のアンケートの結果でもお話ししますが、体調が悪い場合には参加しないという点では、この団体も徹底していました。これもスポーツクラブなどで感染が広がりにくくなっている理由の一つだと思います。

林：知人の職場で新型コロナ感染が発生したのですが、自己申告に基づいて濃厚感染者を特定していたということを聞いていたので、先ほど濃厚接触者をどうやって決めたかという質問をさせていただきました。

安藤：自己申告に基づいて保健所の職員が対応して決めると思うのですが、職員も必ずしも慣れていないためケースバイケースとなると考えられます。本題とは離れますが、今回の新型コロナウイルスによって、保健所の職員へはかなりの負荷がかかっているはずです。そんなわけで、保健所の所長が最終的には責任を負う形ですが、大元の判断は厚生労働省の基準に従うということになります。

中塚：先週末、U-15 フットサル全国大会の東京都予選の運営をやった際、出場するプレーヤーは全員 2 週間の健康観察を義務づけました。体温や体調を記入した用紙を受付に提出させます。忘れたら参加できません。検温もしますが、用紙自体は自己申告なので信用するしかありません。参加者の一人が 3～4 日前に「体がだるい」のチェックがありました。その後は回復し、試合当日も検温し体調も良かったので参加してもらいましたが、保健所ではなく、運営側で判断しなければならないことを経験しました。ちなみに更衣室は使用せず、男子はスタンドで更衣してもらいました。マナー上、望ましくはありませんが、やむを得ないところです。

張：私も運営する立場になることがあります。参加者の体温が 37.5 度以上は参加できないとしています

が、37.2-3 度の人が時々いて、そういう時には判断に迷います。結局返すことはしていないのですが、日本の場合セーフティーサイドに判断する人が多いように感じます。

中塚：このあたりで前半終了。このあとグループに分かれて、それぞれ自身の経験や感想を話し合ってもらう時間にしたいと思います。岸さんお願いします。

岸：はい、では 6～7 人のグループに分かれて 15 分間ブレイクアウトの時間とします。

☆グループで討議

＜3 グループに分かれ、自己紹介から情報交換へ＞

中塚：みなさんそれぞれ話が盛り上がったと思いますが、この辺りで後半にいきましょう。

安藤さんお願いします。

4. パラアスリートのコロナ対応

安藤：パラバドミントン強化指定選手である大濱真選手にコロナ禍での状況をお聞きしたので紹介します。大濱選手は学生時代に事故で脊髄損傷となりそれ以来車椅子を使った生活をしています。企業の体育館をパラバドミントン専用で使用し緊急宣言下でも同体育館で練習できたそうです。他のパラバドミントン選手と比較すると恵まれた環境だそうですが、コロナウイルスにより次のような影響があったそうです。

県を跨いで練習する機会がなくなったため、他の選手と一緒に練習ができなくなり、自分の実力がわからない（実戦練習が減った）、またマッサージなど、身体のケアに行く機会が減ったというデメリットを感じています。

一方、手指の消毒や車椅子の消毒をまめに行うようになったということで、従来よりももしかしたら感染症にかかってしまうリスクは減ったのかもしれないという、これはコロナによる恩恵かもしれません。また友人とネットで交流する機会が増えたという影響を受けたそうです。

大濱真選手 (2019年パラバドミントン強化指定選手)

34歳 競技歴4年 (高校までは野球)
大学生時代に交通事故に遭い脊髄損傷、以来車椅子使用
30歳からパラバドミントンを開始

【練習環境】 練習ー自宅は自家用車を使用
ブリジストン (小平市) の敷地内体育館
パラバドミントン専用。選手2名 コーチ1名
バドミントン8面取れる
チェアワークも広いスペースで練習ができる



5. 地域スポーツのアンケート報告

先ほど紹介したスマイルクラブを含め7つのスポーツ団体にアンケート調査を行ったので報告します。

所在地は 6 都道府県、総合型地域クラブが 4 団体、バレエ、ハンドボール、サッカーがそれぞれ 1 団体です。

協力いただいたクラブ団体の所在地、種目

地域： 東京(2)、兵庫、大阪、
熊本、高知、千葉
種目： 総合型(4)、バレー、
ハンドボール、サッカー、

アンケート (地域のスポーツクラブでは)

- 運営にあたって参考にしてはいる新型コロナ対策指針など
- 運営の際にコロナ対策で特に気をつけている点
- 新型コロナ感染症の影響で活動を
 - ☐ 一時的に休止した、☐ 一時的に縮小した、☐ 変更しなかった
- 2020年8月末の時点で活動は
 - ☐ ほぼ全て実施、☐ 一部を実施、☐ 休止
- スタッフで新型コロナウイルス感染者がいましたか？
 - ☐ はいの場合のみ以下の質問にお答えください、☐ いいえ ☐ はい
- 会員で新型コロナウイルス感染者がいましたか？
 - ☐ はいの場合のみ以下の質問にお答えください、☐ いいえ ☐ はい
- 新型コロナウィルスによってクラブにもたらされたデメリット (複数回答可能)
 - ☐ 活動種目の減少 ☐ 会員数の減少 ☐ スタッフ数の減少
 - ☐ 活動できる施設の減少/制限 ☐ 収入の減少 ☐ その他
- 新型コロナウィルスによってクラブにもたらされたメリット (複数回答可能)
 - ☐ 新しい活動種目の開発 ☐ 新規会員者がいる
 - ☐ スタッフ数の増加 ☐ 新しい活動施設が開拓
 - ☐ 補助金など収入の増加 ☐ その他 具体的に
- 貴団体を本調査の協力者として報告しても良いですか。
- 行政などへの要望、期待はありますか。あればご記入ください。
- with コロナの時代の地域スポーツクラブの今後について、貴クラブの展望、もしくは日本の地域スポーツ全般の展望について、お考えがあれば記入ください。

参考にしてはいる新型コロナ対策指針は、多くが日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会作成のものが最も利用されていました。特に気をつけている感染対策は、会員やスタッフの健康管理、施設や用具の消毒などが主なものでした。

Q1. 参考にしてはいる新型コロナ対策指針

日本スポーツ協会・日本障がい者スポーツ協会	4
日本スポーツクラブ協会	2
競技団体作成の指針	2
海外の指針	0
その他 (自治体、大学など)	3

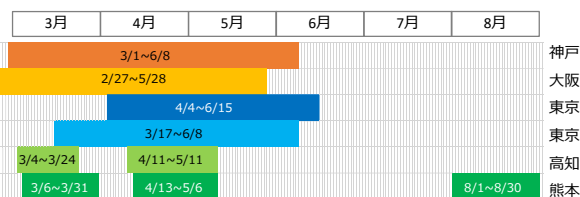
Q2. 特に気をつけている感染対策

(複数回答可能)

会員・参加者の健康管理	6
スタッフの健康管理	4
施設や用具の消毒や衛生	5
移動中の行動(特に電車の場合)。人ごみを避ける	1
ゼッケン等の共有で使用していたものは個人管理に	1
給水前に手指消毒の実施	1
換気、人数制限、休憩用椅子の配置	1
広い別会場を準備して開催	1

活動休止期間は団体によって差がありますが、行政の指導の違いも反映しているようです。これまでにスタッフや会員で新型コロナウイルス感染者が発生したのは、7団体のうち1団体(スマイルクラブ)だけでした。

Q3. 活動休止期間



Q4. スタッフや会員の中に感染者はいましたか？

スタッフに感染者あり	0/7
会員に感染者あり	1/7

会員数の減少、収入の減少、活動する種目の減少、活動できる施設の減少といったことが主だったデメリットです。一方コロナによるメリットは少ないのですが、新規の会員がいる(これはコロナが関係しているかどうか分からないが)、補助金収入があったこと、子供たちの安全をより一層考えるようになったがありました。

Q5.新型コロナウイルスによってクラブに もたらされたデメリット (複数回答可能) 活動種目の減少 3 会員数の減少 5 スタッフ数の減少 0 活動できる施設の減少／制限 3 収入の減少 5 その他 休会者が15名いる 1 イベントの延期 1	Q6.新型コロナウイルスによってクラブに もたらされたメリット (複数回答可能) 新しい活動種目の開発 0 新規会員者がいる 1 スタッフ数の増加 0 新しい活動施設が開拓 0 補助金など収入の増加 1 その他 子供達の安全をより一層考えるようになった 1
---	---

Q7の行政への要望期待は、そのまま文章を示していますが、1. 持続化給付金などの助成金制度に申請し給付を受けることができ、活動休止による会費収入減の大きな補填となり、感謝している。2. 公共施設（支援学校の体育館）が、換気が不良の構造で感染対策に不向きなので改善してほしい3. スポーツ活動の制限による健康被害についても調査して欲しい。（運動機会の減少による、幼児から高齢者まで）4. 学校と塾、稽古事の両立等について、小学校、中学校の先生や関係者と話し合う機会が欲しい というものがありました。

Q7.行政などへの要望、期待 1. 持続化給付金などの助成金制度に申請し給付を受けることができ、活動休止による会費収入減の大きな補填となり、感謝している。 2. 公共施設（支援学校の体育館）が、換気が不良の構造で感染対策に不向きなので改善してほしい	3. スポーツ活動の制限による健康被害についても調査して欲しい。（運動機会の減少による、幼児から高齢者まで） 4. 学校と塾、稽古事の両立等について、小学校、中学校の先生や関係者と話し合う機会が欲しい 5. 収入が減った時等の総合型クラブへの支援体制の構築
--	---

Q8の with コロナの時代の地域スポーツクラブの今後の展望についても読み上げますと、1. 継続的なクラブ運営を行っていくにあたり、会費収入以外の新たな収入源の確保や、会員へのサービスの向上を考えることが必要、2. 感染に気を付けながら、子供が運動できる場を提供する努力を大人が怠らないことが重要、3. オンライン活動の発展の可能性、4. 「安心」というキーワードが重要になるので、「安心」してスポーツ活動に参加できる取り組みを繋がりを通して、皆で検討していく必要性 5.活動再開時のほつらつとした笑顔を見ると、地域のスポーツクラブとして皆さんの生活に寄り添いながら、健康的な生活をサポートしていきたい。6.クラブの存続や新しい生活スタイルを考えオンラインレッスンも準備しています。しかし、交流があつての総合型クラブなので、オンラインがいいのかどうか悩ましい。7.何もかも中止にするのではなく、どうやったら出来るかを考えて進めることが大切。（同様意見あり）以上でした。

Q8. withコロナの時代の地域スポーツの今後の展望について

1. 継続的なクラブ運営を行っていくにあたり、会費収入以外の新たな収入源の確保や、会員へのサービスの向上を考えることが必要
2. 感染に気を付けながら、子供が運動できる場を提供する努力を大人が怠らないことが重要
3. オンライン活動
4. 「安心」というキーワードが重要になるので、「安心」してスポーツ活動に参加できる取り組みを繋がりを通して、皆で検討していく必要性

5. 活動再開時のほつらつとした笑顔を見ると、地域のスポーツクラブとして皆さんの生活に寄り添いながら、健康的な生活をサポートしていきたい。

6. クラブの存続や新しい生活スタイルを考えオンラインレッスンも準備しています。しかし、交流があつての総合型クラブなので、オンラインがいいのかどうか悩ましい。

7. 何もかも中止にするのではなく、どうやったら出来るかを考えて進めることが大切。（同様意見あり）

最後になりましたが協力いただきました団体並びに選手を紹介します。

NPO 法人ユニバーススポーツクラブ（兵庫）、大阪ジュニアクラブ（大阪）、NPO 法人総合クラブとさ（高知）、NPO 法人 A-life なんかん（熊本）、NPO 法人トラッソス（東京）、豊川美恵子エコール・ド・バレエ（東京）、NPO 法人スマイルクラブ（千葉）と大濱真選手です。発表は以上です。



☆全体で討議

中塚：：ありがとうございました。人数が手頃なので、ブレイクアウトルームではなくここからは全体でディスカッションにしましょう。どなたか質問ありますか？

笹原：スポーツするこれらの団体は、決まった活動場所を持っていますか？ コロナの影響で公共施設の抽選がとりやすくなったのかという質問です。

張：私の経験では、大学生が大学の施設が使えず公共施設を申し込むようになるなどして逆にとりにくくなっているという印象です。行政への希望という部分では、公共体育館の更衣室やシャワールームが、狭い、換気が悪いなど貧弱なために、コロナの影響で使えなくなっている施設が多いようだ。これを機会に予算を投入して改善が進めば良いと願います。

中塚：先ほど話をしたフットサル大会では、スタンドで着替えるのが習慣になっている中学生に、本来は「更衣室を使いなさい」と指導すべきところ、コロナ渦では更衣室は密になってしまうのでスタンドでの更衣をやむなしとするジレンマを感じています。

安藤：障がい者スポーツに詳しい児玉さんからコメントいただきたいと思います。ユニバーサルデザイ

ン（バリアフリー）が多く運動施設で広まれば、通路や更衣室のスペースも広くなり、それがコロナのような感染症の対策にも繋がるように思うのですがいかがでしょうか。

児玉：地域の障害のある人たちは、合併症を持っている人が多くコロナウイルスに感染することに用心して6ヶ月くらい運動ができていないケースが多いというのが現状です。スポーツ施設について言えば、言われる通りユニバーサルデザインが広がれば、感染症対策もそうですし、障がい者が利用できる施設が増えるので、そのような方向に進めば良いと思います。

中塚：大学生のコロナによる影響はどうなっていますか？ 大学生の野田さん…

野田：大学施設は、図書館が4年生優先で最初に利用できるようになりました。体育施設は授業も部活動も自分が知る限り利用できていないです。このような状況に対し親などから学費の一部を返して欲しいという声もあります。

中塚：安藤さんの発表の中でも登場したトラッソスの吉澤さん、補足することはありますか？

吉澤：障がい者が一般共用のフットサルコートを使う際に、障がい者は口に手を持っていきやすいこともあり、特に手洗いとアルコールによる手指の消毒は頻繁に行うように気を遣っています。この点は保護者にも理解してもらっています。今後冬場を迎えるとアルコールは皮膚が乾燥しやすくなるので、次亜塩素酸を使うかどうか頭を悩ませています。

本郷：企業のグラウンドを借りてサッカーをしています。市のサッカー大会や近くのチームに声をかけて対外試合をやるときは 体温 手指消毒 用具の消毒など実施しています。自分たち仲間だけでサッカーをするときにどこまでやるか明確になっていません。また、体温など自己申告ですし、「密にならないように」「更衣室を使用しないように」などの（施設管理者からの）指示はあるものの、密かどうか人数確認はしていない、実際には更衣室使用が可能など施設によって対応が様々です。管理者側がちゃんとやっていたという証明のための通達のような気もして、こちらとしては何が正しいか悩ましいと感じています。

張：感染予防のために試合の際の整列や挨拶を行わなくなりましたね。

本郷：サッカークリニックでは「大きな声は出さないようにしましょう」、「接触プレーはしないようにしましょう」といったことを意識していますが、試合になるとそうはいかないです。

中塚：私は主催者の側に立つことが多いのですが、何かあったときの予防線（言い訳）のためでなく、本質的な対策

をとることが大切だと思います。先ほども話をした体育実技では、夏休み前はボールを使うことはあってもゲームまではしない、二人組でのペアストレッチもなしとしていましたが、普通のスポーツ活動ではコロナウイルスに簡単には感染しないことが見えてきたこともあり、いまではゲームも二人組でのペアストレッチも OK にしています。柔道でも、顔を近づける技でなければ寝技も OK ととらえています。安藤さんどう思いますか？

安藤：スポーツで新型コロナに感染するリスクはきっと高くはないのだろうけれど、ドリンクやタオルの貸し借りを
行うことなどから感染を広げるリスクになると考えられます。どんな行為が感染しやすいかを中高大学生に理解し
てもらった上でスポーツをする際の制限を外していくことが、指導者や管理者側が行っていくべきことなのだと思います。

笹原：自分がサッカーの対外試合を実施するときは、健康状態のチェックを行なっているが、次チームで紅白戦を行
う際は、誰が参加したかをという確認はできるが、健康状態のチェックはしていません。

本郷：自分のところは自主的に参加者の体温や健康状態の記録を残すようにしています。企業のリクリエーション活
動として企業のグラウンドを使って活動しているが、実は企業に属さないメンバーの方が多い。そこでもし感染者が
発生したら大きな問題になるかもしれないので、リスクを考えたら活動をしないという選択肢もある。「それもち
よっとなー」ということで活動を再開しました。

中塚先生に質問です。体育の先生はどのように線引きをしているのでしょうか。

中塚：文科省やスポーツ庁のガイドラインがあり、それに沿って学校でガイドラインをつくっています。それに沿っ
て、体育実技や理科の実験、話し合いの場面など、活動ごとにガイドラインがあります。体育は人と触れ合う機会
も多いので、特に対策に気をつけています。日本の教育をリードしていく使命もあるので、ガイドラインを踏まえ
つつ、ただビビるだけでなく、できるだけ生徒に運動をしてもらおうと考えています。そのため、どうすればでき
るかということを、情報を持ち寄ってアイデアを出し合いながら進めています。言われたことに従うだけではダメ
ですね。オフィシャルの場では感染対策に気を使うが、自分ら（内部）がやるときは「関係なし」ということが起
きているが、これはおかしい。「with コロナ」の時代においては、個々の主体性、「ちゃんとモノ考えて生きてん
のか？」ということが問われると思います。

本郷：他の学校ではリスクを取らない授業を行う選択をする学校もあるのですか？

中塚：そのような学校もあります。中には感染予防のために体育はやらないとしているのに、部活はめちゃくちゃや
るところもあります。そこでは（コロナ対策は）「関係なし」となっているようにみえる学校もありますね。
話は尽きませんが9時を回ってしまいました。最後に安藤さんからアナウンスを含めてお願いします。

むすび

安藤：今日はみなさんお付き合いいただきありがとうございました。

ところで10月23日と30日にスポハグカフェというオンラインイベントを実施します。10月23日のゲストはバ
レーボール元日本女子代表の益子直美さんです。益子さんは「指導者が怒ってはいけないバレーボール大会」をは
じめ、すでに6回ほど実施しているはずですが、その大会はメディアにも取り上げられています。子供たちが伸び
伸びとスポーツできる環境を考えるといった内容になると思います。10月30日は欧州、特にドイツのスポーツ事
情に詳しい帝京大学の大山先生がマルチスポーツの魅力について話してくれます。進行はバルシューレの普及を進

める富士唯男さんです。詳細は今月末に GMSS ヒューマンラボのホームページ並びに Peatix というサイトで公開する予定です。

最後にこちらの言葉を皆さんにご紹介して終わりとします。

“The best and most beautiful things in this world cannot be seen or even heard but must be felt with the heart.” (Helen Keller)

ご清聴いただきありがとうございました。

予告





2020年10月23日(金) 開演20:00 ?
益子直美さんと語るスポーツの未来(仮題)
ゲスト : 益子 直美 氏 パレーボール元日本女子代表
進行 : 島沢 優子 スポーツ・教育ジャーナリスト

2020年10月30日(金) 開演20:00 ?
欧州に学ぶマルチスポーツの魅力(仮題)
ゲスト : 大山 高 氏 帝京大学准教授
進行 : 富士 唯男 (株) バルシューレ・アカデミー代表



The best and most beautiful things
in this world cannot be
seen or even heard
but **must be felt**
with the heart.

御清聴ありがとうございました! *Helen Keller*

株式会社GMSSヒューマンラボ
安藤 裕一



中塚: 私からも案内があります。月例会は「with コロナの時代に向けて」をテーマにオンライン月例会が続きます。

オンラインの間は無料で参加できますので、多くの方に参加いただけたらと思います。

次回は10月29日。これまで数多くのイベントにボランティアとしてかわっておられる小松章一さんに、スポーツボランティアの世界がコロナによってどのような影響を受けているのか話してもらいます。11月は部活動の再開について取り上げます。そして12月13日は公開シンポジウムです。「with コロナ」を取り上げます。

サロン2002の会員・メンバーになってもらえれば情報を配信します。是非ご入会下さい!

とりあえずここで終了。この後は懇親会に移ります。オンライン懇親会に参加できる方は引き続きやりましょう。

(ここで記念撮影)

では5分後に乾杯することにししょう。

*本報告書の図表は、発表時に使用したスライドに若干の改編が加えられています。

以上